



## 農作業メモ

# 大里地域で問題となっている 水稻の病害虫について

## 1 稲こうじ病

稲こうじ病は、平成28年産水稻に多く発生しました。本病は、出穂後の稲に発生し、検査で確認されると規格外に扱われるため経済的に大きな影響をもたらします。

### (1) 症状

稲こうじ病は籾にのみ発生します。最初は、緑黄色の小さな塊が現れ、しだいに大きくなって籾を包む菌糸塊(病粒)となります。最初は薄い膜で覆われていますが、成熟すると緑黒色となり、収穫期近くになると、黒色で不定形の塊を形成します。

被害は登熟歩合の低下や、死米や乳白米が増加します。さらに、病粒の混

入により品質が低下します。

### (2) 稲こうじ病の発生しやすい条件

- ① 近年、発生の多かったほ場
- ② 出穂期が8月15日頃より遅いほ場
- ③ 窒素が多施用されたほ場
- ④ 幼穂形成期から出穂期までの降雨が多く、その時期に、低温(25〜28℃)や日照不足の場合は発生を助長します。

### (3) 対策について

- ① 適切な施肥管理を行います。
- ② 常発ほ場では、早生品種を作付します。
- ③ 薬剤の防除適期は、水和剤、粉剤、乳剤等の散布剤は、出穂前14日前後、粒剤は出穂前18日前後を目安に散布します。

なお、薬剤の散布適期が短いので注意が必要です。

- ④ 粗選機を使用した稲こうじ粒(籾)の除去や色彩選別機による被害粒(玄米)の除去が可能です。

## 2 スクミリンゴガイ

(ジャンボタニシ)

### (1) 生 態

卵はピンク色で、用排水路のコンクリート壁面、稲や雑草の茎等に数十〜数百個の塊で産みつけます。ふ化して1年目は1〜3<sup>センチ</sup>程度、2年目は5<sup>センチ</sup>以上となります。

### (2) 症 状

本種は、移植直後のイネを集中して食害します。大里地域では発生地域がまだ限定的ですが、いつたんだ着すると常発化するため、計画的な防除が必要です。

柔らかい植物や枯死した植物を好んで食べるため、4葉期までのイネに被害を与え、多発すると減収する場合があります。

あります。

### (3) 対 策

ア 均平な代かき、浅水管理  
スクミリンゴガイは水位が浅いと活動が鈍くなるため、田植後の浅水管理で被害を減らすことができます。

- ① 貝を粉碎するイメージで荒おこしはゆっくり行います。
- ② 丁寧な代かきによってほ場を均平にします。
- ③ 水位は3<sup>センチ</sup>以下の浅水管理にします。浅水管理の期間は田植後の約3週間程度です。

### イ 薬 剤 防 除

田植後に散布する登録薬剤があります。浅水管理と適切な薬剤を組み合わせることでより高い防除効果を得ることができます。

ウ 成貝の捕獲、卵塊の除去  
成貝の捕獲、卵塊を除去することで、密度を下げ、翌年以降の発生量を減らします。

(大里農林振興センター 農業支援部)